

■落合直文 国文学者・歌人。若くして国語国文学の泰斗となり、与謝野鉄幹ら多くの歌人を養成したが、早世した。

おちあいなおぶみ

遣欧使節・・・1861＝

父の知行地陸奥国本吉郡松岩村(気仙沼市)で、仙台藩伊達家筆頭家老鮎貝盛房の次男に生まれる。幼名亀次郎盛文。5男2女の三番目。

鮎貝家は伊達一門に次ぐ名家であったが、

明治維新・・・1868＝7歳：戊辰戦争で仙台藩が佐幕派のため、閉門の処置となり、

初の日刊新聞1870＝9歳：

廃藩置県・・・1871＝10歳：父に連れられ、仙台に出る。

明治6年政変 1873＝12歳：

佐賀の乱・・・1874＝13歳：神道中教院語学校に学び、その主宰者の国学者で神職の落合直亮に見込まれて、その長女松野の許婚として、養子となり、平田学を伝授されて行き、

西南戦争・・・1877＝16歳：伊勢神宮禰宜に任じられた養父に従い、伊勢に赴いて、神宮教院に入学。

琉球処分・・・1879＝18歳：

堀秀成の薫陶により水戸学を伝授されるとともに、山内樸堂から漢詩文を、植松有園から和歌を学び、

明治14年政変 1881＝20歳：選ばれて、東京に遊学、小中村清矩らに国漢学を学び、二松学舎に入って三島中洲の指導を受け、

新体詩抄・・・1882＝21歳：創設もない東京大学の古典講習科に入学。許婚松野が死去して挽歌。

岩倉具視没・・・1883＝22歳：松野の妹(直亮の次女)竹路と結婚。

秩父事件・・・1884＝23歳：兵役で中退、歩兵第一連隊に入営するが、上官に目をかけられ、舎中での勉強継続を許される。

国民之友始・・・1887＝26歳：軍務を離れ、

初の対等条約1888＝27歳：*皇典講究所補充中学校教師となり、政府の命で国語教育等の調査にあたり、上田万年らと言語取調所を創設。井上哲次郎の漢詩をもとに「孝女白菊の歌」を発表、新体詩の長編叙事詩として一世を風靡。

帝国憲法発布 1889＝28歳：_第一高等学校教授に就任。国語伝習所創立に参加、主任講師となるとともに、国文国史講習所と東京専門学校講師となり、以後、欧化に抵抗して、国語国文の振興をめざす教育や言論に専念。森鷗外の「於面影」刊行に参加し、鷗外らと(柵草紙)を発刊し、小説「悲哀」を発表。

帝国議会始・・・1890＝29歳：_萩野由之らと「日本文学全書」を刊行開始。皇典講究所が国学院となった後も講師。

足尾鉞毒始・・・1891＝30歳：病弱の妻竹路と離婚し、菊川操子と再婚。「歴史読本」[新撰歌典]、

大本教・・・1892＝31歳：*「日本文学全書」全24編完結。短歌革新を目ざし、{歌学}を創刊、{女子文の会}を興す。この年の歌「緋絨のよるひを・・・」により「緋絨の直文」と有名になり、与謝野寛ら俊秀が続々入門。

郡司千島探検 1893＝32歳：長編叙事詩「騎馬旅行」。_ {浅香社}を結成して、新体詩など韻文改良運動を推進、若い歌人の養成に努め、

日清戦争始・・・1894＝33歳：義父直亮が死去。日清戦争にあたり戦意昂揚の歌文。「日本大文典」刊行開始、

白馬会・・・1896＝35歳：「大鏡詳解」「高嶺の雪」などを刊行、

八幡製鉄始・・・1897＝36歳：「日本大文典」完結。_新歌会を興し、若手歌人らの新体詩集「この花」を刊行。

子規句歌革新 1898＝37歳：「ことばの泉」。*糖尿病により、第一高等学校教授を辞任し、以後、転地療養、入退院繰り返す。

ビアノ国産化・・・1900＝39歳：_鉄幹が創刊した{明星}の運動を支援するなど、近代短歌の展開に努め、

教科書疑獄・・・1902＝41歳：「国書辞典」など、なお、多くの著作を刊行したが、

日比谷公園・・・1903＝42歳：実母が死去。危篤の報に無理して帰省したため、体力が衰えて_没した。